



令和4年3月10日発行

日南町立日南中学校

3月

今月は、1, 2年生は進級、3年生は卒業という大きな節目の月ですね。別れと出会いのこの時期、期待や憂い、いろいろな思いが入り交じることでしょうが、一步を踏み出せば、必ず何かが動き出します。応援していますね。

Tomorrow is another day. 今日なにかいやなことがあっても、必ず明日という新たな日がある。だから、いやなことは(今日という日に)置いて、前へ進もうという意味です。嫌なことがあっても、ご飯がおいしかったり、見上げた空がきれいだったり、家族の優しさに触れてほっとしたり、と、小さくても確かな「いいな」を心の栄養にして、明るい方を向いて生きていきましょう。

お知らせ

今年度の図書の貸し出しは、3月17日(木)までです。それ以降は返却のみ受け付けます。なお、春休みの貸し出しはできません。来年度の貸し出しの開始日程は、後日お知らせします。

来年度入荷予定の本タイトル

『1話3分「カッコイイ」を考える子供戦国武将譚』

『愛だけが残る』

『ラストで君は「まさか！」と言う』

『心が落ち着き、集中力がぐんぐん高まる！子どものためのマインドフルネス』

『親子で一緒にやるからできる中学生の勉強大全』

『大坂なおみ 世界 No.1 に導いた77の言葉』

・・・などなど

Teachers' recommendation ~先生のおすすめ~

松本先生のおすすめ

『スマホ脳』

by アンデシュ・ハンセン



この本の著者はスマホを開発した人なのですが、彼は自分の子供がスマホを使う際には制限をかけているといいます。スマホは非常に便利ですが、その誘惑の多さには注意が必要です。松本先生は、この本を読んでからスマホを使う時間は一日10分になったそうです。

【本の紹介】

平均で一日四時間、若者の二割は七時間も使うスマホ。だがスティーブ・ジョブズを筆頭に、IT業界のトップはわが子にデジタル・デバイスを与えないという。なぜか？睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存—最新研究が明らかにするのはスマホの便利さに溺れているうちにあなたの脳が確実に蝕まれていく現実だ。教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラー。

石原先生のおすすめ

『学園シェフのきらめきレシピ』

by 吉野詩子



中学生の娘さんが「面白い」とおすすめ。先生も読んでみて面白かったそうです。
☆面白さのポイント☆
・どんな料理や技を出してくるのかとわくわくする。
・見ておいしい！(話に出てきた料理のレシピを見て作って)食べておいしい！

【本の紹介】

つばさ文庫のお料理小説シリーズがついに登場☆中学1年生の羽鳥のもとに突然現れた料理の天才・フーコは、羽鳥や先生のために隠し味カレーライスやハンバーグを作りだして!?登場した料理のレシピもついてます！



裏面ご覧下さい

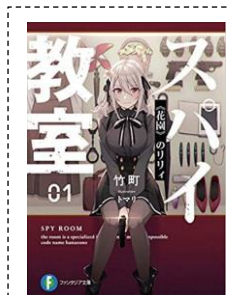
注目！！新企画！

図書委員のおすすめ



僕のおすすめは『あしたからは名探偵』です。この本は「名探偵」シリーズの本で、その中からこの本を選びました。この本の魅力は、主人公のミルキー杉山がいろいろな人からヒントをもらって解決するストーリーです。また、「事件編」と「解答編」に分かれていて「事件編」ではミルキーと一緒に事件を解く鍵が隠されているので是非一緒に考えてほしいです。ミルキーはドジなところもあるけど、探偵の仕事を真面目にします。そんなところも見たいと思います。

それから、ミルキーの「きょうのできごと」というコーナーが大きな話が終わった後にちょこっと出てくるのを見逃さないでください。
(文責:実延晃一)



私がおすすめる本は『スパイ教室』です。なかまたちでいろいろな困難や壁を協力して乗り越えていく話です。この本の好きな所はいろんな個性を持った人たちが、いろいろな敵と戦うところです。この本を読んで感じたことはチームワークが必要なんだということです。新しい本のところにありますので、是非読んでみてください。
(文責:片岡夢夏)



僕が推薦したい本は『ぼくらの七日間戦争』です。この本は中学校一年生の男子と女子が廃工場を舞台に立てこもり、大人たちを攪乱する、それぞれの得意分野を生かし、助けてくれる大人も現れ、縛りつけてくる親、先生を高見から翻弄する、とても痛快な作品です。僕がこの本を読むようになったきっかけは友達を読んでいて面白そうだったので読んでみたらとてもおもしろく、時間も忘れて一気に読んでしまいました。この本が初めて出版されたのは1985年ですが、今読んでも変わらずおもしろい作品です。この「ぼくら」はシリーズになっており、全29巻と少し長めですが、興味がわいた人は読んでみるのもいいかもしれません。
(文責:矢田貝大翔)



私がおすすめる本は『ついてくる怪談 黒い本』です。

図書室の肖像画の下に落ちていた「黒い本」を拾った「僕」から物語が始まります。本の内容と似たような不思議な出来事が「僕」の身の回りにも起きます。この本は怪談の本ですが、「僕」のおかげでいいことが起こることも書いてある本です。私的にはとても気に入っている本なので、気になった人は読んでみてください。
(文責:河田伊織)

2021年度の貸出冊数 2022.3.9 update

1年生 120冊(34) 2年生 149冊(39) 3年生 30冊(13)

来年度も来館をお待ちしています。

